



SAKURA

The tip of an

# ICeberg

The tip of an ICeberg=氷山の一角

感染制御は見える部分だけでなく、見えない部分に多くの課題があることの象徴です

アイシーバーグ  
サクラニュースレター

No. 22

Serving Global Healthcare with Sakura Tradition and Innovation

## Contents

感染制御トピック

『医療現場における滅菌保証のための施設評価ツール  
Ver.1.0』が発行されました

REPORT

緩和ケア施設におけるマセレーター導入事例について

知っておくと便利な サービス豆情報

滅菌装置の日常点検

## 感染制御トピック 『医療現場における滅菌保証のための施設評価ツール Ver.1.0』が発行されました

2022年5月に一般社団法人日本医療機器学会より『医療現場における滅菌保証のための施設評価ツール Ver.1.0』が発行されました。『滅菌保証のガイドライン2021』と併せて業務に携わる皆様にはとても関心の高い発行物と思われます。このたび、本誌において本ツールの準備に尽力されました深柄和彦先生(東京大学医学部附属病院)に概要の解説を頂きました。

「あのドクターは凄いやね」と、外科医が評価されるときには、手術の経験件数・どういう難しい手術ができるか・合併症の発生率を含めた「手術の腕前」が第一の基準になると思います。これが大学病院の外科医となると「研究業績・英語の論文数」、「多くの外科医を束ねるマネジメント能力」も重要評価項目に入ってくるでしょう。滅菌管理部門では、日本医療機器学会が20年前に導入した滅菌技士/師認定制度が、個人の評価ツールとして役立っています。一方、「あの病院の外科は凄いやね」と診療科が評価される場合は、例えば手術件数やがんの5年生存率が他の病院と比較されるケースが多いです。では、各医療施設の滅菌管理部門が、どのくらい適切な業務を行っているかを客観的に評価できる基準は有るのでしょうか？ 病院機能評価ではいくつかのチェック項目が問題になりますが、部門全体の本当の業務レベルを適切に判断することは、なかなか難しいかもしれません。再生処理する器材数や滅菌器・洗浄機の運転回数を比較するだけでは、仕事の大変さこそ伝わりますが、質の評価はできません。2021年に発出された「医療現場における滅菌保証のガイドライン」新版では、全ての項目について優劣が無くなり、勧告レベルも廃止されました。つまり、全て遵守することが求められますが、現段階で満たしている施設がどれだけ有るのでしょうか。滅菌管理部門の現在の業務レベルの評価ができなければ、スタッフがどれだけ適切な再生処理を行っているかを院内・院外の人たちに理解してもらえないですし、これからの更なる改善のために必要な機器やマンパワーの充足を自施設の経営陣に求めることも難しくなります。そこで、今回、日本医療機器学会に新たに発足した滅菌管理業務検討委員会が、国立大学病院材料部長会議とその構成大学病院の滅菌管理部門・全国の中材研の皆様にご協力いただいて策定されたのが、『医療現場における滅菌保証のための施設評価ツールVer.1.0』です。各設問に「はい」と答えられるようなら1点、「いいえ」であれば0点の点数を付けていきます。設問の中にどの施設も行うべきである「必須項目」と、高いレベルでの取り組みを評価する「加点項目」を設けましたが、今回は初版であるため、「必須項目を満たしていないから不合格」とすることはあえて

避けました。代わりに、必須項目が満たされていない場合は「早急に改善すべき事項がある」ことをご理解いただくような形としました。加点項目が「はい」ならば2点となります。施設の規模によって導入が難しい滅菌器など



の大型機器があると思いますが、これらの機器が無いから総得点数が低くなって評価が下がってしまうことが無いように、「保有していない場合は設問の対象外」として評価の基準を「総得点」ではなく「得点率」としました。これによって、施設の大小にかかわらず、滅菌管理業務レベルを客観的に評価できるよう配慮したつもりです。実は、借用器材の取り扱いなど、評価項目(設問)に加えたい事項がいくつもありましたが、初版であり、膨大な量になるのを避けるために、ぐっとこらえて設問数を絞った経緯があります。それでも、参考調査項目を除いて120問もあり、「こんなに答えていられない」とか、「設問の意味がさっぱりわからない」と思われる方々もいらっしゃるかもしれません。しかし、日本中の滅菌管理部門に携わる皆様には、このツールの使用を通して、自施設の業務レベルを評価し、自分たちの立ち位置を把握し、より良い業務のための改善点を見つけてほしいと切に願っています。すべては患者さんのため、自分たちを磨いていくため、部門の管理者もスタッフも一緒に設問の意味をよく考えて取り組んで欲しいと思います。そして、「あの中材、凄いやね!」と院内・院外の人たちに評価してもらい、この重要な滅菌管理部門の仕事に誇りを持ってあたれるようになって欲しいと思います。

深柄和彦

東京大学医学系研究科 侵襲代謝・手術医学講座  
同 医学部附属病院 手術部・材料管理部・  
病態栄養治療センター



# 緩和ケア施設におけるマセレーター導入事例について

鈴鹿医療科学大学附属 桜の森病院  
看護師長 海野知美

当院、鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院は、2021年4月に開院いたしました。

緩和ケア専門病院で、全国にも数件しかなく医学部を持たない大学の附属病院は、全国でも初めてのケースとなります。がんの終末期患者を受け入れ、痛み、苦しみ、倦怠感などがんから生じる苦痛の症状を緩和するケアを担っています。当院入院の患者は、急性期・一般病院からの転院や、在宅医からの依頼による緊急入院やレスパイト入院など、様々な入院経路があります。

開院1年が経過し、当院でのケアを振り返ると、注射や点滴、医療用麻薬などの薬剤による緩和だけではなく、心と心のふれあい、人の手の温もりなど、医師や看護師などの関わりによるケアの重要性を改めて痛感し、それを行うためには十分な時間が必要であることも再確認しました。これからも患者との時間を十分に確保し、大切に過ごし、心身ともに緩和されるケアの提供を目指し努力していきたいと考えます。

病院開設において、数年前より、大学内の病院開設準備担当の方々がコンサルティング会社のご指導のもと、開設にむけて準備を進めてくださいました。私自身が準備に関わったのは開院2年前からとなりますが、順調に準備が進められており、使用機器もある程度決定されておりました。その中



マセレーター設置の様子

で、マセレーターという未経験の機器を見つけました。使用方法を聞いた時、こんな便利な機器があったのかと驚きました。

病院の廃棄物には、血液や体液、排泄物が多く、中には感染症患者のものもあり、廃棄する際には、周囲や自分自身への感染伝播などがないように、慎重に取り扱うことが必要になります。そ

の作業は看護師、看護補助者が担っており、洗浄、乾燥作業にはかなり時間と労力が費やされてきました。尿器やポータブルトイレの中バケツなどは、洗浄機を使用すれば洗浄の手間は省けますが、時間

帯によっては処理が追いつかず、使用済みの容器が汚物処理室に滞ってしまいます。作業が追いついていないことが判っていながら、その時間を作り出せないというつらい現実もありました。そのような状況の中で、マセレーターを取り入れることで、排泄物処理を安全に行う事ができ、洗浄・乾燥作業に要していた時間を短縮する事ができたと考えます。作業の短縮によって作り出した時間は、患者と関わることに使っています。マセレーターは、パルプと共に排泄物の処理をしますが、運転毎に除菌消臭剤にて槽内が洗浄されるため不快な臭いもありません。操作も簡単ですし、正しく操作すれば日々の手入れに時間を費やすこともありません。昨年1年間大きな故障もなく経過することができました。

私たちが患者に使用する物品は、安全で安心して、心地よく使用できることが必要と考えています。パルプは、その都度、新しい物を提供し、患者も安心できると考えます。

パルプについてお願いがあるとすれば、色をつけてほしいと思いました。視覚的に清潔ではありますが、口元で使用する場合には、グレーという色とパルプの質感は、少し抵抗を感じる方もおられるかも知れませんが、色の付いたパルプを検討して頂ければ嬉しいです。

以上が当院におけるマセレーターの導入事例のご報告となります。少しでも皆様の参考になれば嬉しく思います。



知っておくと便利な

## サービス豆情報



### 滅菌装置の日常点検

サクラ精機株式会社 サービス事業本部

医療現場ではRMD(再使用可能医療機器)の確実な滅菌処理を行う為に、装置は常に最適な状態を維持していなければなりません。ガイドライン等では、QMS(品質マネジメントシステム)を基盤とした滅菌バリデーションの実施を奨めています。しかし、それ以前に品質の確保に加え、使用者の安全確保の面でも装置の日常点検の実施を忘れてはいけません。

主な日常点検項目をご紹介します。

- 1.滅菌圧力計の確認.....扉を開いた状態で滅菌圧力計の指示が0(大気圧)である事を確認する
- 2.滅菌室内の清掃と損傷の確認...運転前に水を含ませた布で滅菌室内を清掃し、壁面や扉面に傷が無い事を確認する
- 3.配管の漏れ確認.....運転開始前と後に、床の水溜まりや配管から漏れが無い事を確認する
- 4.記録計の確認.....装置の電源を入れた際に値が表示され、記録用紙がある事を確認する
- 5.コンプレッサの確認.....コンプレッサが付属されている場合は、タンクの水抜きを行う

また、高圧蒸気滅菌装置は圧力容器の為、法令によって自主検査を毎月行う事が定められています。日常点検の内容の他、扉の開閉状態や安全弁の漏れ確認を行ってください。

日本医療機器学会から発行された「医療現場における滅菌保証のための施設評価ツール Ver.1.0」にも日常点検の手順書を持つことが必須項目となっており、その大切さがわかると思えます。日常点検に関するご相談は弊社サービス担当者へお問合せください。



## 出展情報

弊社ホームページからも情報をご覧いただけます。

- **メディカルショージャパン&ビジネスエキスポ2022**  
(第97回日本医療機器学会大会)  
2022年 6月 2日(木)～ 4日(土) パシフィコ横浜  
主催:(一社)日本医療機器学会
- **第37回日本環境感染学会総会・学術集会**  
2022年 6月16日(木)～18日(土) パシフィコ横浜  
※展示会は17日(金)～18日(土)  
主催:第37回日本環境感染学会総会・学術集会
- **HOSPEX Japan 2022**  
2022年10月26日(水)～28日(土) 東京ビッグサイト  
主催:(一社)日本医療福祉設備協会／(一社)日本能率協会

## お知らせ

### 教育センター研修スケジュールについて

国内外多くのお客様に研修の場としてご利用頂いておりますサクラ精機教育センターの今年度の研修スケジュールは鋭意準備中です。5月下旬～6月上旬に出来上がる予定となります。パンフレットに加えて、当社ホームページでもご覧いただけます。是非ご利用いただけます様お願いいたします。詳細は弊社までお問合せ下さい。



## メールマガジン配信を始めました!



アイシーバーグ

検索



ホームページよりお申し込み頂けます。

みなさまのお申し込みをお待ちしております。

## 編集後記

新緑の若葉が美しく過ごしやすい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

メルマガのお申込みはお済みですか。購読お申込みは無料です。ぜひ、弊社ホームページまたはこのページのQRコードから購読お申込みください。お客様に寄り添ったお役に立てる情報をメルマガからもお届けしていきたいと思っております。生まれたてのメルマガですが、本誌共々よろしく願いいたします。どうぞ次号もご期待ください。



サクラ精機 ICEberg編集部

## サクラ精機株式会社

編集・発行:サクラ精機株式会社 感染制御事業本部  
〒104-0033 東京都中央区新川1-25-12 新川フロンティアビル  
ホームページ <https://www.sakurajp.com>

サクラニューズレター[ICEberg] アイシーバーグ

No.22 2022年5月31日発行

QRコードを読み取ると、バックナンバーをご覧いただけます。

